

---

# 背には、二つの道が。

佳生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

背には、二つの道が。

### 【Nコード】

N2218B

### 【作者名】

佳生

### 【あらすじ】

そこに立った君。僕の後ろには、左右に分かれた道。君はどっちに行く？どっちでも変わらないよ。逃げれるか否か。助けてもらえるか否かが違うだけ。ねえ、右と左、どっちがいい？

(前書き)

詩ではない気がしますが、物語というには、あまりにも短いような気がします。雲の上っぽい、一人語りです。

納得できないよ。全然。

僕は、納得できない。

君はどうなの？

納得できた？

ここに来てみて、納得できた？

ふふふ。

納得できないでしょう？

出来る訳ないじゃない。

君は理解もしていないんだから。

樂をしようとするからだよ。

逃げちゃったからだよ。

本当にもう、お馬鹿さんだなあ。

うふふ。

なあに？ そんな風に僕を見たって、僕は何にもしてあげないよ。

僕、君みたいなのは嫌いだもの。

彼……昔会った彼は良かったな。潔くって、それでいて徹底してた。君に会わせたいくらいだよ。

君みたいに……いや、君らみたいに、周囲に

「背負わせた」

んじゃなくて、全てを

「背負って」

消えた彼。

ああ、会わせたいな。

一回、彼と会話してみればいいんだよ。

そうだな。

彼ならたっぷり、君らの心の奥底に届くまで語ってくれるだろうな。

君らとは、着眼点が違うんだよ。

彼は人の為に死んでしまったけど、いや、それがいいっていう訳じゃないけど、自分で死んだのよりはましかなあ。

分かるかい。

彼は白で、君は黒だよ。

彼は甘くて、君は苦い。

彼は柔らかくて、君は固い。

彼は天で、君は地だ。

そんな感じ。付け加えるなら、月とスッポン？

何を思っただろうなつたのか知らないけど、馬鹿馬鹿しいと思っよ。

自分より辛い立場の子は居るのに。

やっぱり人間は、その目で見ないと、理解しない生きもののようにだね。

常に目を背けているものを見てみればいいよ。

少しは分かるから……って、君、もう死んでるんだっけ。

ああ、もう！

何なんだよ、本当に！

そんなきよとした顔でいたって、現状が変わらないでしょ。

それに変えられないよ。

僕は神様じゃあない。

……あるいみ、神様かもしれないけど、僕は何にも出来ないよ。出来来ないんじゃないな。しないんだ。

だって、君が逃げてきた人生だもの。

介入する事が、干渉する事が、もう一度戻ることが、簡単なわけ無いじゃない。

自分で一度投げたものは、拾いに行かなくちゃ。

走って、ね。

地面に触れるたびに、君の人生はひび割れて、欠けて、もしかしたら粉々になってしまうかもしれない。

君は行くかい？

それとも逝くかい？

一度、捨てたのに？

いくの、君は。

だったら僕は助けてあげよう。

運命から逃げた、臆病で卑怯な君を。

助けてあげるよ。

その代わりに、もう二度と、逃げる事は出来ないよ。

逃げる事は許さない。

この僕が、絶対に許さないよ。

それでいいんなら、助けてあげよう。

さあ、どうする？

納得したい？ その為には、君はやっぱり、逃げたくなくとも思うよ。逃がしはしないけどね。

納得したくない？ 楽なまんまで、全部忘れて、やり直せる事を、次の自分に祈る？ きっと、繰り返すだけだろうけど。

まあ、何にせよ、僕には関係ないけどね。

存在が他存在に関わることの出来る範囲なんて、決まってるもんなんだ。

それに変わるのには、僕じゃない。あくまでそれ自身なんだからね。

分かるかな。

きっと分からないよね。うん、分からない。

そうでしょ？

しょうがないなあ。じゃあ、君に選ばせてあげる。

右と左、どっちがいい？

(後書き)

実は、小説・背負いの、訳分からん存在の一人語りだったりしました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2218b/>

---

背には、二つの道が。

2010年11月4日14時05分発行